

令和元年度 輪光福祉社会事業報告書

令和元年3月31日
社会福祉法人輪光福祉会

令和元年度は、平成から令和に変わる年で、前半は、保育・介護・養護・障害の事業においても順調な滑り出しで、明るい未来が見えてくるように利用者の確保や経営効率のアップの為の地域とのつながりを重視し、各イベントの開催や参加を行いました。運営面は、介護保険事業も安定し、清寿園やグループホーム・障害相談支援・保育園と同様に収支としてマイナスを出さない結果に繋がり、改善する為の“動く”という事の理解が少し得られ、人員確保や育成の必要性も少しずつ共通理解でき、研修会開催する事で各事業所の職員一人一人がサービス事業である事を再認識する事が出来たと思います。又、平成31年度も、各事業が連携し、地域との関わりを増やし、地域との関係作りを行い、一人でも多くの方々に輪光のサービスを利用する機会を増やしてきましたが、令和2年2月中旬から全世界に脅威をもたらしている新型コロナウイルスが流行し、世界でのパンデミックという事態になり、日本国においても非常事態宣言が発令され、大変な事態を引き起こしており、感染を出さないために試行錯誤した対応を現在も4事業所協力の下に取り組んでいる状況です。

次に各事業実施状況についてですが、

介護事業の特養においては、4月においての入院が昨年対比として延べ約100日の増加になりましたが、その後において令和元年12月迄における入所者の入院も減少傾向にあり昨年比として△843で、特養平均稼働が3月末現在で95.4%(全体が94.3%)⇒昨年93.3%で1パーセントのUPで安定しています。特養の1日平均利用者は、多床50人に対し47.4人・ユニット40人に対し38.8人で、ご利用者様の高齢化、重度化により年間入院実人数143人で延べ入院日数2,075日でした。退所者は27名(うち死者21名・長期入院者1名・施設退所2名・在宅0名)で昨年より6名減でした。ショートステイは9人定員に対し、月平均7.4人でした。又、2月中旬から全国的に猛威を振るっている新型コロナウイルスの対応などにおいて苦慮しながら、持ち込まない為の面会制限等や手洗いうがいの徹底・体温測定・マスク着用(確保)・消毒液等の確保を行い、職員に国の方針に沿った休暇の過ごし方を伝え、現時点においても対応を続けています。ご利用者様には窮屈な思いや御家族の皆さまにも長い期間においての面会制限の対応していますが、ご利用者様の体調を崩さないような施設内で出来るレク(映画や花見等の園内散策)等を取り入れています。特養全体を通しては、入院が12月中旬～1月の中旬までの約1ヶ月間において入院ゼロの日が続き、冬場において過去に無い実績に繋がりました。この結果は、現場職の看護・介護職の感染対策の取組みが良かった事が要因と思えます。今後においての新型コロナウイルス感染対策も重要とされると思いますので、持ち込まないという事を全職員へ周知するような勉強会を行い、感染対策に取り組んでいきます。又、各事業所の行事等は、特養を中心とした行事に取り組んで少しでも地域の方との関わりが出来る場の提供として、桜祭り・運動会・納涼祭・夜間消防訓練・やごろうどん見学・テラスビアガーデン・輪光介護セミナー・ユニット外出等を実施しています。職員処遇としては、

前半は職員確保は安定はしていましたが、年の途中からの育児休業や年度末までに本人希望の退職増や外国人技能実習生の受入がコロナウイルス感染による試験延長や受入自粛等で入国できなく、シルバー人材活用(7名)や派遣からの紹介やハローワーク紹介で新しい年度を迎えています。令和元年度も、職員の質の向上の為の研修会等を毎月取り組み、特に感染においては看護職が中心になり基本的な事(体温測定や血圧測定等の必要性)についての知識を再認識する為に年数回の勉強会の取り組み、感染予防に繋がっています。又、外部の方の勉強会は回数減にはなりましたが、職員が中心になった研修参加報告を交えての勉強を行い、安心安全なサービスに繋がっていきます。人材育成においてはフォローアップの重要性を理解して頂き、指導体制を作って行きます。又、介護職員の業務負担軽減としての勉強会を委員会主導で行い、入浴リフトや見守りセンサー付きのベッド・体位変換器やボード等活用の再認識に努めてきました。

通所介護は、地域を訪問する事や事業所との連携強化やレク等の取り組みを継続した結果、当初においては稼働が改善されましたが、後半からは入院や入所・感染対策等においての影響で稼働が横ばいになっています。又、稼働の伸びない原因として課題である職員配置や送迎の見直しが重要とされる事においても、職員補充が出来つつありますので改善に繋がっていきます。利用は、1日平均18.1人(うち予防給付6.5人)・保険外0.6人で、前年対比としての稼働が少しずつ改善されてきましたが、後半においては監査指摘の加算や送迎等の見直しの検討をしています。又、サービスにおいては、当初は作業療法士や看護職といった専門職の配置が少なくなり、厳しい状況での機能訓練でしたので、後半からは各職員が協力の下にカラオケを使ったりした体操等やレク活動を行ってきた事が良い結果をもたらしたと思います。

訪問介護は、障害や介護の稼働としては伸びなやんでいますが、介護が閉鎖事業所からの紹介や障害は新規が少し増えて改善しつつありましたが、稼働安定までには繋がっていませんでしたので、年の途中登録ヘルパーにおいては特養の応援などに入って頂きました。年間利用回数4,070件(内訳：介護1,589件・総合事業802件・障害支援1,405件・保険外274件)の6人体制で取り組みました。介護や障害支援のご利用者様も少しずつ改善はされましたが、安定には繋がらなかったため特養の応援などを取り入れ、常勤2・登録4の配置で再構築し、今後も質の高い支援に繋げ、ご利用者を獲得していきます。

居宅介護は、介護において現状維持と稼働をあげる為の継続して地域への働きかけに力を入れた結果、稼働が微動ですが増えつつありますが、稼働安定の目標には達成できませんでした。他事業所と連携・協力し、地域に必要とされる事業所として輪光の存在を確立しながら地域ニーズ、個別ニーズの把握に努めアセスメント、ケアプラン作成を行いサービスの提供に繋げることが出来ました。又、サービスの充実を図る為に行政、各事業所、病院、民生委員との連携に取り組む事ができました。配置人員2人で、実績として要介護平均46.8人・予防平均10.3人・総合事業(住民主体型通所)平均5.5人でした。今後新規ご利用者様獲得に向けて毎月の居宅新聞の配布とサービス事業所との連携を図りご利用者の皆様が在宅での生活がより長く継続出来る様にお手伝いさせていただきます。又、鹿児島思いやりネットワークの相談支援も各事業所と連携し、地域に役立つために行っていきます。

障害事業の障害者グループホームは、8名の入所の方もそれぞれのホームでの安定した生活も出来ていて、2年目の3名も仕事にも慣れ行動範囲も増えた事で成長していますが、生活の中だるみがあり、面談等を通しての指導助言を行っています。又、1人の入所者において

は車の免許取得が出来、本人の希望である自宅通勤を来年度へ目指していきます。新規の入所が4/22日に入所できましたので、新しい方を含めた9名が自立できる為のサポートをしていきます。実績稼働としても目標定員10名⇒8名として平均月8名(98%)になっています。行事としては、今年度は8名での新幹線活用した長崎ハウステンボスへの旅行なども本人達の希望を考えた対応で行う事で“出来る”事を身につけてもらう為に一人一人が自立出来るように取り組みました。相談支援事業は、地域に理解を得られるようになりました。相談支援員の交替から2年目になり、台帳整理としても改善出来つつありますが、業務における知識不足もあり、モニタの漏れ等が数件あるという現状は続いています。又、1月においては市の監査で口頭指摘では3件の書類不備ありましたが改善されています。稼働は少しずつ上がっています。令和元年度は月平均18名の計画策定とモニタリングを含む実績になりました。今後も、不足している事の指導助言やモニタ・計画の漏れの無いように事業の安定に繋げていきます。

保育事業の輪光保育園は、あたたかい心を添えたまことの保育の更なる充実を図り、輪光にしか出来ない保育を提供するとともに、保護者参加型行事等の内容の充実、保護者会や懇親会の開催・日々の連絡帳や掲示板の活用による親子の触れ合いや保護者との連携をはかり、より信頼感や満足度が高まるように努めました。又、高齢者サロン訪問・年末年始特別警戒出発式・末吉デイサービスと森林組合の方からの手作り積み木プレゼント・岩南小での「110番の日」人文字作成等の地域行事への積極的な参加やふれあい交流、ホームページやブログの随時更新・各事業所や店舗へのポスター掲示やパンフレット据え置き・市民祭での手作りクッキーと手形カードプレゼント等によるPR活動を行いました。カワイ音楽教室の専任講師によるピアノ教室の開設、学童保育も櫛小・月野小への園バスでの迎えと体験学習等の内容充実をはかり、一時保育と共に保育サービス充実を行いました。保育実績は、延べ422名で月平均35名(うち、乳児保育延べ22名、月平均2名)、学童保育実人数20名で延べ2534名、延長保育実人数26名で延べ220名、一時保育実人数1名で延べ9名の利用がありました。野菜(特に大根の植え付けから収穫)・芋の植え付けから収穫・バケツ稲の種まき栽培収穫、調理実習、食具の持ち方や食事マナーの指導、毎日の給食の栄養紹介等による食育活動の充実や、給食業者選定見直しによる経費削減・ヨーグルトティア購入等による安心安全で美味しい給食の提供をはかりました。又、各種研修会への積極的な参加や勉強会・ミーティングでの職員の資質向上・保育の質の向上を図り、各小学校や関係機関とも連絡会等を通じて連携をとりました。園庭のゴムチップ舗装工事、大型遊具(ぐるぐる林)の購入、ローラー滑り台修繕、遊具研磨塗装を行い、園児が伸び伸びと安心安全に遊べる環境整備を行いました。

養護部門の清寿園は、令和2年1月までは、ほぼ事業計画どおり事業実施してきました。しかしながら新型コロナウイルス感染症が世界各地で発症したために、2月中旬以降は面会や外部出入りに制限を加え、殆どの園外行事は中止しました。この事で、ご家族や他事業所等の面接に支障を来しましたが、ご利用者は可能な園内活動を続けることでストレスや不穏な状況は解消できました。令和元年3月31日現在入所状況として41名(男性13名・女性28名)の利用があり最高齢者101歳・最低齢者67歳・平均年齢84.65歳(男性79.76歳・女性86.92歳)で平均介護度は1.11『自立12名・要支援1(3名)・要支援2(4名)・要介護1(18名)要介護2(3名)・要介護3(1名)』です。又、施設及び備品など老朽化が進み設備改修や備品の買い替え頻度が高まってトイレセンサー交換・居室のタタミとクロス張替え・大型衣類乾燥機・洗濯機・公

用車オイル漏れ・各所空調設備・污水管について修理等を行ないました。又、(株)エミング様から車イス1台寄贈され、ナースコール用のデジタルコードレス2台、ネーランド、パルスオキシメーター、シュレッダー、防炎カーテン・ブラインド、掃除機、センサーマット2台を新規で購入しました。職員状況については、人手不足で新規採用が厳しく輪光ディサービス職員やシルバー人材センターの派遣を活用して、ご利用者の生活に支障を来たさないようにしたものの給食業務については、調理員の求職者がなく勤務が回らずご利用者への食事提供に支障を来たす恐れがあり、新年度給食業務は業者委託することにしました。

最後に、地域との関わりを持つために毎年2回実施している輪光介護セミナーを地域の皆様のニーズに沿った計画を行っていき、ボランティアグループGENKIの活動としての“地域の空き缶拾いや近隣小学校での立哨等”を地域の方に更に理解して頂くために地域に出向きアピールしていきます。又、“ペットボトルのふたやプルタブの回収”“出前授業”も継続していきます。